

令和3年度防災・日本再生シンポジウムを開催しました。

福井大学では、令和3年11月28日(日)に防災・日本再生シンポジウム『日本一の原子力立地福井県における防災危機管理Ⅹ「東日本大震災から10年をふりかえる～広域避難」』をオンライン方式で開催し、64名が参加しました。

このシンポジウムは、本学が東日本大震災、福島第一原子力発電所事故を機に関心が高まった「原子力防災」について、本学附属国際原子力工学研究所の立地自治体である福井県、敦賀市と密接に連携し、教育機関の立場で進めている活動の一環として、国立大学協会の支援を受け、平成24年度から開催しているものです。

第10回目となる今回は、『広域避難』を主なテーマとし、敦賀市役所危機管理対策課・松田将和氏、NHK 福井放送局・伊藤怜氏、茨城県議会議員・下路健次郎氏、東京大学大学院情報学環附属総合防災情報研究センター・関谷直也氏、関西電力株式会社・三木昌彦氏、日本原子力発電株式会社・丸谷充氏、福島県庁生涯学習課・舘山遥奈氏、東日本大震災・原子力災害伝承館・小林孝氏、放医研・富永隆子氏、敦賀市立看護大学・山崎加代子氏の10名に加え、コーディネーターであった本研究所の安田仲宏教授の計11名にご講演いただきました。

初めに本学の末信一朗理事から挨拶があった後、講演前半のセッション1では、「この10年の振り返り」と題して、松田氏、伊藤氏、下路氏、関谷氏、三木氏、丸谷氏、安田教授から、セッション2では、「福島からのメッセージ」と題して、舘山氏、小林氏から、セッション3では、「今後の原子力防災」と題して、富永氏、山崎氏、安田教授からそれぞれご講演いただきました。

今回もコロナ禍の影響で、昨年引き続きオンラインでの開催となりましたが、実施後のアンケートでは、「今回のシンポジウムのポイント、今後の原子力防災を考えるにあたってのキーワードとして避難計画の実効性、自分事化、その事を感じられる内容で勉強になりました。」「今回のシンポジウムで多職種連携の重要性と、自らが行動を起こすということを再認識しました。」等のご意見をいただきました。

原子力防災等に関する多様な活動や本学の教育研究活動について、聴講者の方に知っていただくとともに、貴重なご意見・ご提案をいただく場にもなり、大変有意義なシンポジウムとなりました。